

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 1 月 28 日
事業所名	グループホーム ふれあい 2階
事業所番号	2371301074
記入者名	職名 管理者 氏名 千田 悦子
連絡先電話番号	0 5 2—7 3 6—8 6 2 0

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町内会の行事ごとへの参加を行ったり、散歩等での地域住民への挨拶を職員が率先して行うようにしている。	○	今後とも町内会の一員として、散歩道の掃除などを行うなどの参加・活動をしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務の流れの中でも話し合い、常に向上するように務めている。	○	今後も理念の共有は重要な課題と考えている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には訪問時に運営の理念をお伝えしたり、季刊紙の発行を行っている。	○	事業所としての役割や活動を、今後は地域の方にも理解していただけるように、季刊紙を回覧板に挟んでいただくことなどを検討している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	子ども110番の設置も行っており、地域の町内会の行事にも参加をしている。	○	今後とも町内会の行事ごとへの参加を行ったり、散歩等での地域住民への挨拶を職員が率先して行うようにしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子ども110番の設置も行っており、地域の町内会の行事にも参加をしている。	○	今後とも町内会の行事ごとへの参加を行ったり、散歩等での地域住民への挨拶を職員が率先して行うようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内での話し合いは行っているが、今後地域住民の方々への学習会の開催も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見が反映されるように作成している。また、課題については改善にむけての取り組みの最中である。	○	課題にも優先順位をつけ、改善の計画をたてていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの趣旨を理解していただき、意見を出し合っていたりしている。	○	運営推進会議での意見をサービスへ反映させていけるようにしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	こまめに区役所に足を運び、役所の方とサービス等について情報の交換を行っている。	○	地域の後援会などにも出席し、幅広い交流に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業については以前に活用されていた方がいたため、支援員のかたとの交流がある。	○	今後も必要な方には情報を提供し、必要性があれば支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の職員間での話し合いを行っている。また、検討会や勉強会にも取り上げていく予定である。	○	管理者は常に利用者や職員の態度や状態を観察し、異常があれば、双方からの情報を得、予防と防止に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の前に、当ホームについて説明を行っている。また契約時には、明解な説明を行い、安心して契約していただけるように</p>	○	<p>現在までに、契約についての不満は寄せられていないが、今後とも十分な理解を得た上で契約していただけるように努めていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常、利用者から寄せられた意見は職員等を通じて、管理者に伝えている。それらを検討し、サービス等に反映させている。</p>	○	<p>今後も利用者・ご家族の意見を反映させていけるように努めていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>基本的には、利用料の支払い時など、月に1回は来所いただき、その際に生活のことや健康状態・金銭管理などについて定期的に報告させていただいているが、著変時や利用者からの訴えなどがあれば、その都度報告させていただいている。</p>	○	<p>今後も利用者やご家族の意見を反映させていけるように努めていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常、ご家族から寄せられた意見は職員等を通じて、管理者に伝えている。それらを検討し、サービス等に反映させている。</p>	○	<p>ご家族の意見を反映させていけるようにご意見箱などを設置し意見収集にも努めていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員からの意見、提案を個別に聞いており、それらを検討した上でサービス等に反映させている。</p>	○	<p>今後も職員から寄せられる意見にも耳を傾け、情報を収集していく。意見箱の活用も検討中である。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間については個別に調整を行っている。</p>	○	<p>人員の確保は必要不可欠であるため、今後も人材育成と共に行っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の生活状態を考慮し、職員の配置は行っている。また、職員の移動の際は利用者の状態について、説明を行っている。	○	今後とも利用者の生活を第一に考え、職員の人事に反映させていきたい。また、情報の共有化もさらに努めていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には参加出来ていない状態であるが、事業所内では不定期ではあるが、勉強会を行っている。	○	人員の確保は必要不可欠であるため、今後も人材育成には力を入れていく。また、勉強会も2ヶ月に1回にするなど定期的に行っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの研修会などに参加した際に他の事業者と交流をしている。	○	今後は同業者との相互訪問などの機会を持ち、質の向上を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員からの訴えを傾聴するようし、改善出来る点は改善するように取り組んでいる。	○	人員の確保は不可欠であるため、職員の離職を防いでいく努力をしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々から、各自の意識調査を行い、職員が意欲的に働けるように取り組んでいる。	○	人員の確保は不可欠であるため、職員の離職を防いでいく努力をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に一度は必ず利用者との面談の機会ををもうける様にし、利用者の希望を伺っている。また、利用者に安心していただけるように配慮している。	○	今後も利用者からの信頼を得られる様に親身に対応していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に必ず面談の機会を設け、ご家族の困りごとを伺い、安心してご利用いただけるように配慮している。	○	今後もご家族と利用者からの信頼を得られる様に親身に対応していく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に当事業所で行えるサービスの説明を行い、他のサービスについての説明も要望があれば行っている。	○	今後もご家族と利用者からの信頼を得られる様に親身に対応していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に面談を行い、納得した上で入居していただいているが、本人が生活しやすいようにご家族と相談しながら、支援している。	○	入居による生活の変化はあるが、今後も出来る限り利用者が生活しやすいように支援していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当事業所の運営理念にあるように、利用者に敬意を表しながら、共に楽しく共同生活が送れるように出来ることをしていただくだけでなく、得意なことを教わりながら支援している。	○	今後も個々の利用者が自信を持ちながら生活していただけるように支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の支援をする際にご家族のサポートは必要不可欠であると考えています。利用者を中心に、支え合えるよう情報を共有しながら支援しています。	○	今後も個々の利用者が自信を持ちながら生活していただけるように共に支援していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時の面談の際に家族関係の情報収集を行い、関係の改善に努めている。	○	今後も家族関係が良好になるように支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者からの要求があれば、電話の介助・手紙のやりとりの支援を行っている。また、連絡があった際には利用者本人やご家族の許可を得た上で取り次ぎ、支援している。	○	今後も、ホーム内で利用者が穏やかに生活することが出来るように支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の状態や状況に応じて、お互いの関係が良好になるように常に配慮し、支援している。	○	今後も、ホーム内で利用者同士が穏やかに生活することが出来るように支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後であっても必要時には連絡をし、つきあいを継続させているご家族もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思いを把握できるよう、日頃より職員間で話し合いながら努めている。	○ 今後は更に細かい希望や訴えを傾聴し、利用者個々の思いを把握出来る様に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴を把握できるよう、日頃よりご家族・サービス事業者を確認したりし、情報収集に努めている。	○ 今後も情報の収集に努め、利用者のなじみのある生活を提供出来るように務めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の状態を常に把握できるよう、職員がさりげなく観察し、よりよい生活を提供できるようにしている。	○ 今後も状態の把握に努め、利用者のなじみのある生活を提供出来るように務めていく。
Ⅳ			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については職員間で話し合い、情報を元に作成している。また、家族・利用者からの意見なども取り込んでいる。	○ 今後も利用者の情報は職員・家族・利用者から得、介護計画に反映させていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に応じて、必要な話し合いを適宜行っている。	○ 今後とも利用者の状態の変化に合わせて、介護計画の見直しは迅速に行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化については介護記録個別に記載している。また、特に注意の必要な事柄などに対しては申し送りノートに記入し、情報を共有化し実践している。	○	今後とも職員からの気づきを全員が共有し、よりよいケアにつながるように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・ご家族の要望に対して、出来る限り柔軟に対応するように努力している。	○	今後とも利用者や家族からの要望を傾聴し、人員・日程の調整などを行い出来るだけ柔軟に対応していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	娯楽のボランティアの活用は行っているが、他の地域資源の活用は少ない。	○	今後は地域資源の活用、協力を得られるよう、情報収集を行っていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在入居中の利用者での対応は今までに無いが、入居希望者やその家族からの訴えや要望、または必要性があれば、対応している。。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までに地域包括センターと協働したことは無いが、今後利用者や家族からの訴えや要望、または必要性があれば、対応していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医への定期的な受診の他に、利用者が希望される病院への移送介助を出来る限り行っている。	○	今後も利用者が希望される病院での受診は行っていく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在は2週間に1度の訪問診療を行い、治療を受けている。その際に職員が医師に相談し、必要な助言を得ている。	○	今後も必要な方には情報を提供し、必要性があれば診療・治療が受けられるように支援していく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の状態の変化は事業所の看護職員に伝達し、健康管理の指針や助言を得ている。	○	今後も適切な指示・指導を元に医療活動の支援を行っていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時・退院する時などこまめにソーシャルワーカーと情報交換や相談を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入所前に面談を行い、早い段階で終末期のあり方については話し合いを行っている。また本人が生活しやすいようにご家族と相談しながら、支援している。	○	今後ますます終末期の対応については検討していかなければならないと考えている。また、利用者からの希望にも出来る限り添えるように支援していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や末期の利用者についてはかかりつけ医と連携して支援を行うが、基本的には治療を行うことが困難であり、ターミナルケアは行わない方針である。そのため、ご家族と検討をした上で転院等の準備を行っていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入所前に面談を行い、実際に居室や生活確認していただきをお得した上で入居していただいているが、本人が生活しやすいようにご家族と相談しながら、支援している。また、退去時には必要な情報提供は必ず行っている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者個々に合わせた穏やかな声掛けや対応を行っている。また記録物についても、配慮している。</p>	<p>○</p> <p>今後の課題としては、職員間での情報共有の為の掲示物などはどうしていくか、などを考慮しながら、プライバシーの確保の徹底に努める。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定を行っていけるということは、利用者にとって重要なことである。と考えているため、極力自己で決めてもらうように支援している。</p>	<p>○</p> <p>今後も利用者が自己にて決めることが出来るように支援していく。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかなホームの生活の流れはもちろんあるが、個々の希望があれば、無理強いすることはなく、自由に過ごしていただいている。</p>	<p>○</p> <p>今後の課題としては、食中毒を検討した際の食事の時間をいつまでにするのか、などを考慮しながら利用者個々のペースを守る支援をしていく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容・美容については本人の希望する店に日程を調整してお連れしている。また、行くことができない方でも美容ヘルパーが来設して、身だしなみを整えることが出来るようにしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も利用者が気持ちよく生活出来るように支援していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでの生活の中で食事は大きな楽しみの一つである。と考えているため、出来る限り利用者が全員そろったところで食事をとるようにしており、調理・配膳も利用者と共に考えながら行っている。	○	今後は利用者個々の嗜好にも合わせた食事の提案が出来るように支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者からの希望があればお酒、タバコは楽しめるように支援している。また、おやつなども一緒に買いに行っている。	○	今後も利用者個々の楽しみを継続させていけるよう支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は出来る限り利用者個々のペースを大切にしながら、排泄介助はさりげなくおこなっている。また、オムツの使用が減らせるように支援している。	○	今後も排泄のタイミングをはかるなど、快適な生活を支援できるようにしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は固定ではあるが、時間帯は自由に入浴してもらえるようにしている。また、希望があれば入浴外の曜日にも入浴出来るように配慮している。	○	今後もゆったりと入浴していただけるよう、温泉の元を日替わりで入れるなどの工夫をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠状態の把握に努め、必要時や希望時にはゆっくりと休むことが出来るようにメリハリのある生活の支援をしている。	○	今後もゆっくりと休むことが出来、安心した生活が送れるように支援していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在はこちらから働きかけをし、ホームの生活の中での役割や楽しみ事や気晴らしを提供している。	○	今後は利用者個々に合わせた役割や楽しみ事、気晴らしの提案が出来るように支援していく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身と一緒に買い物に行き、個別に自身の欲しいものを買えるように支援している。	○	今後も利用者自身に必要なものは自身で購入していけるように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩の介助だけでなく、利用者個々の要望に応じて、外出の支援をしている。	○	今後も利用者個々の要望に応じて、外出の機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の要望に応じて毎回ではないが、人員の調整などを行って一泊旅行などの外出の支援をしている。	○	今後も利用者個々の要望に応じて、ご家族などの協力を得ながら、出来る限り外出の機会を増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要求があれば、電話の介助・手紙のやりとりの支援を行っている。	○	今後も希望時にはやりとりの支援を行い、また希望が増えるように絵手紙の作成などを検討している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者本人のなじみの方の訪問は、利用者がよりよく生活していく上で大切であると考えているため、いつでも歓迎し、ゆったりと利用者と共に寛げるように配慮している。	○	今後も訪問していただけるよう談話スペースなどの環境整備を徹底していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことによる弊害について理解し、身体拘束は行っていない。	○	今後も環境の整備に努め、身体拘束は行わないようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は、利用者の気持ちを考え、職員がかけることはないが、玄関については防犯上、施錠している。利用者は自己にて解錠し、出られている。	○	今後も施錠は行わないようにしていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者に気を配りながら声をかけ、所在は把握するようにしている。	○	今後も利用者の自尊心に配慮しながら、さりげなく安全確認をしていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員が気を配っていれば使用は可能な方も多いため、利用者に応じて物品の利用は行っている。また、使用後には必ず管理場所に戻すようにしている。	○	今後も利用者の自尊心に配慮しながら、さりげなく支援をしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一人一人が、利用者個々の状態に応じて起こりうる事故の可能性を把握し、予防に努めている。	○	今後も事故の可能性や事故防止を重点に置き予防に努めていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルが作成してあるが、訓練は行っていない。	○	急変時の体制について再度見直しを行い、今後は定期的な訓練なども考慮に入れている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1度各災害を想定し、避難訓練を行っている。	○	今後は1ヶ月に1度の避難訓練の実施をおこなっていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	ご家族には入所時に利用者の状態について起こりうる危険・リスクについて説明を行っている。また、状態の変化に合わせて、適宜報告・話し合いを行っている。	○	今後も利用者個々の状態に応じて起こりうる事故の可能性を把握し、早期に家族と話し合いを行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック時に異変があれば、スタッフ間で情報を共有化し、速やかに受診等の対応を行っている。	○	今後もバイタルチェックは利用者の体調のサインと考え確実にやっていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬表を作成し、職員が服薬の支援をスムーズに行えるようにしている。	○	今後も服薬内容の変更時には職員が情報の共有を確実にやっていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者には毎日の散歩や体操に積極的に参加していただくように声掛けしたり、牛乳を飲んでいただくように配慮している。	○	今後は利用者個々の排便のリズムを職員が理解し、便秘の予防につなげていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の自尊心を妨げることなく、さりげなく支援を行っている。	○	今後は利用者全員の歯科の往診などを検討し、口腔内の異常の早期発見などにつなげていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフも入所者と共に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で、さりげなく食事量、水分量を確認している。	○	今後は食欲不振時の補食の目安を統一していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策のマニュアルが作成してあり、スタッフも理解し、予防に努めている。	○	今後は感染症情報の収集、職員の研修なども行って行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な食器や調理器具の消毒を行っている。食材は前日に配達されたものを使用しているため、鮮度も良い。	○	今後も個々の利用者の嗜好品については、一緒に買い物に行くようにしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者さんと共に花を購入し、花壇に植えたり、飾ったりして、親しみやすい家庭的な雰囲気作りがしてある。	○	今後も利用者や家族が親しみやすい空間作りをしていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭用の家具を使用したり、机に花を飾るなどをして、季節感にも配慮している。	○	今後も利用者や家族が居心地の良い空間作りをしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置し、ゆったりと寛げる空間を作っている。	○	今後も利用者や家族が居心地の良い空間作りをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や、ご家族と相談し、家具は持ち込んでいただいている。ベッドについては施設が設置した物を使用いただいている。	○	今後とも状態の変化には柔軟に対応し、心地よかつ安全に生活していただける居室を提供していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内に温度・湿度計を設置し、快適な環境を維持している。また、日に数回の換気を行っている。	○	今後も利用者や家族が居心地の良い空間作りをしていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にはスロープ・トイレ、廊下に手すりを設置し、また、各自の居室にも必要に応じて転倒防止などのために、マットを設置したりしている。	○	今後とも一人ひとりの身体状態にあわせて、環境整備を行っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴場に張り紙をしたり、自室のネームプレートは個人個人に合わせて、手作りしている。	○	今後とも一人ひとりの身体状態にあわせて、環境整備を行っていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入所者さんと共に花を購入し、花壇に植えたり、家庭菜園を作り収穫したりしている。	○	今後も利用者や家族が居心地の良い空間作りをしていく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)